

中国・四国ブロックエイズ対策の実施状況について

厚労科研：医療体制整備に関する研究班の分担研究者の立場から

広島大学病院 輸血部/エイズ医療対策室 藤井輝久

中四国地方のHIV/AIDS患者累積数(2014年3月末日時点)

16+5

13+12

103+64

190+94

54+17

49+36

26+19

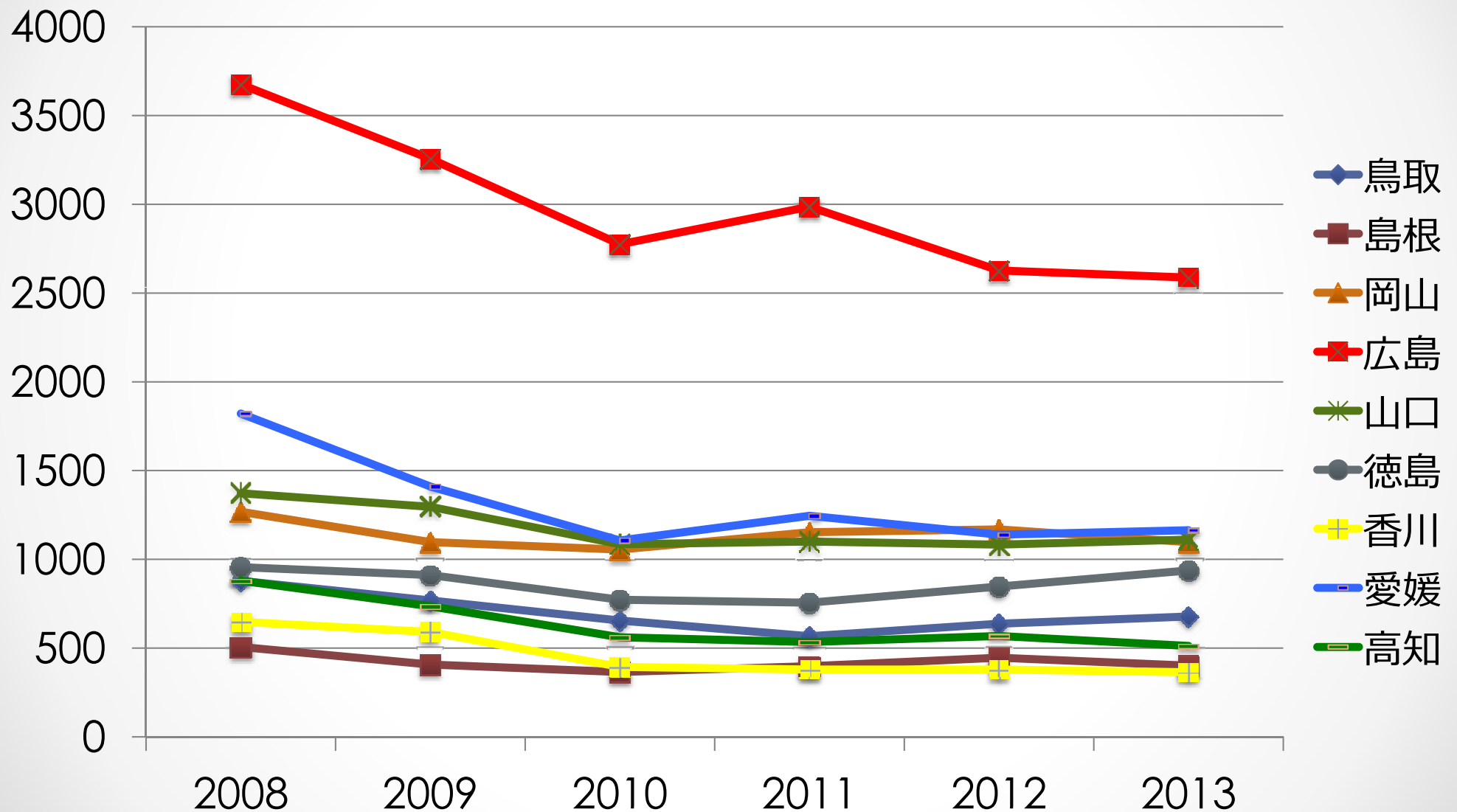
65+49

30+16

HIV+AIDS = 546+312 (中四国) / 16,026+7,277 (全国)

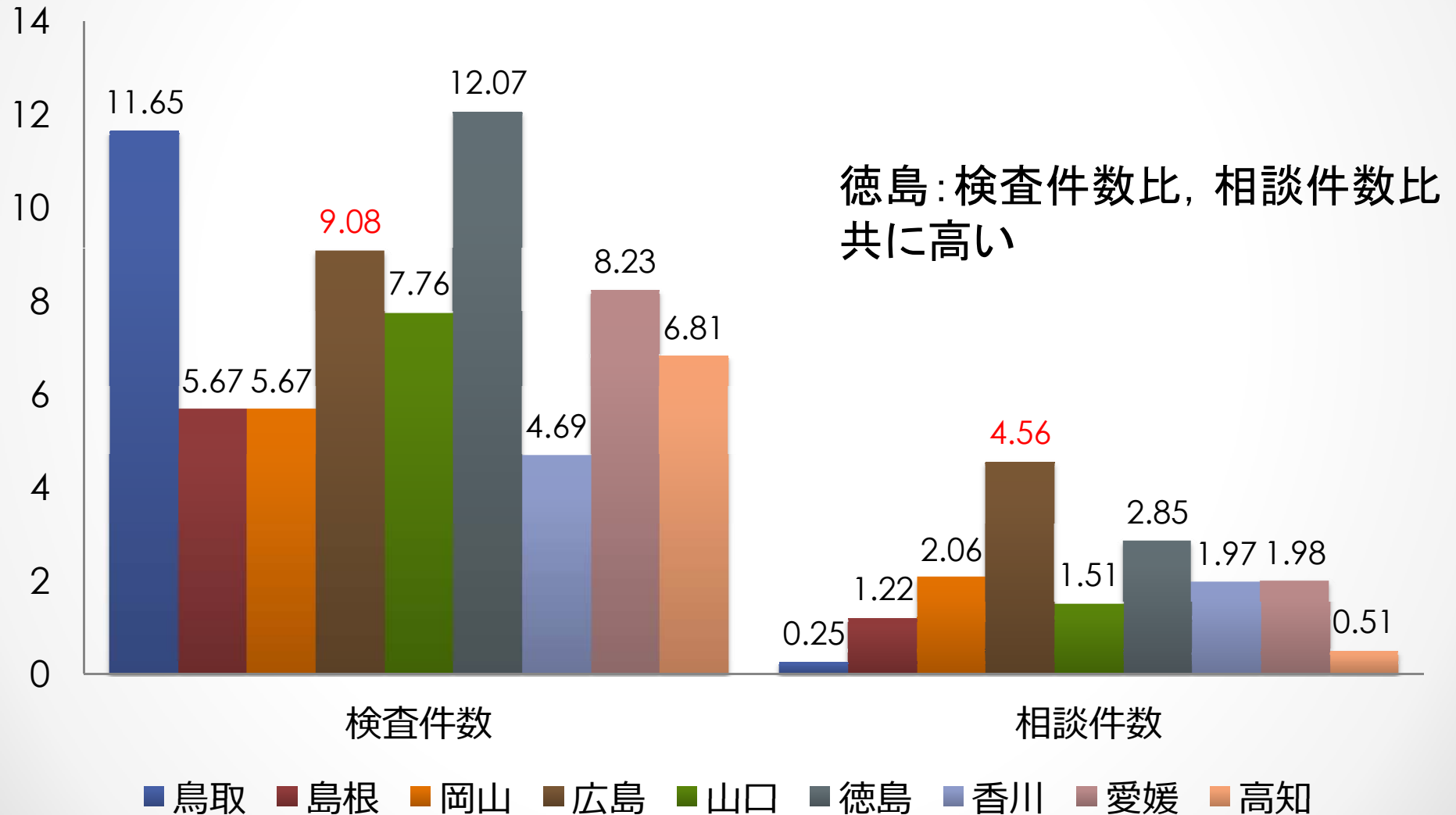
= 日本の感染者の3.4%, 患者の4.3%

保健所等における検査件数



広島,愛媛など↓ 鳥取,徳島など↑

人口1万人対での県別検査件数, 相談件数

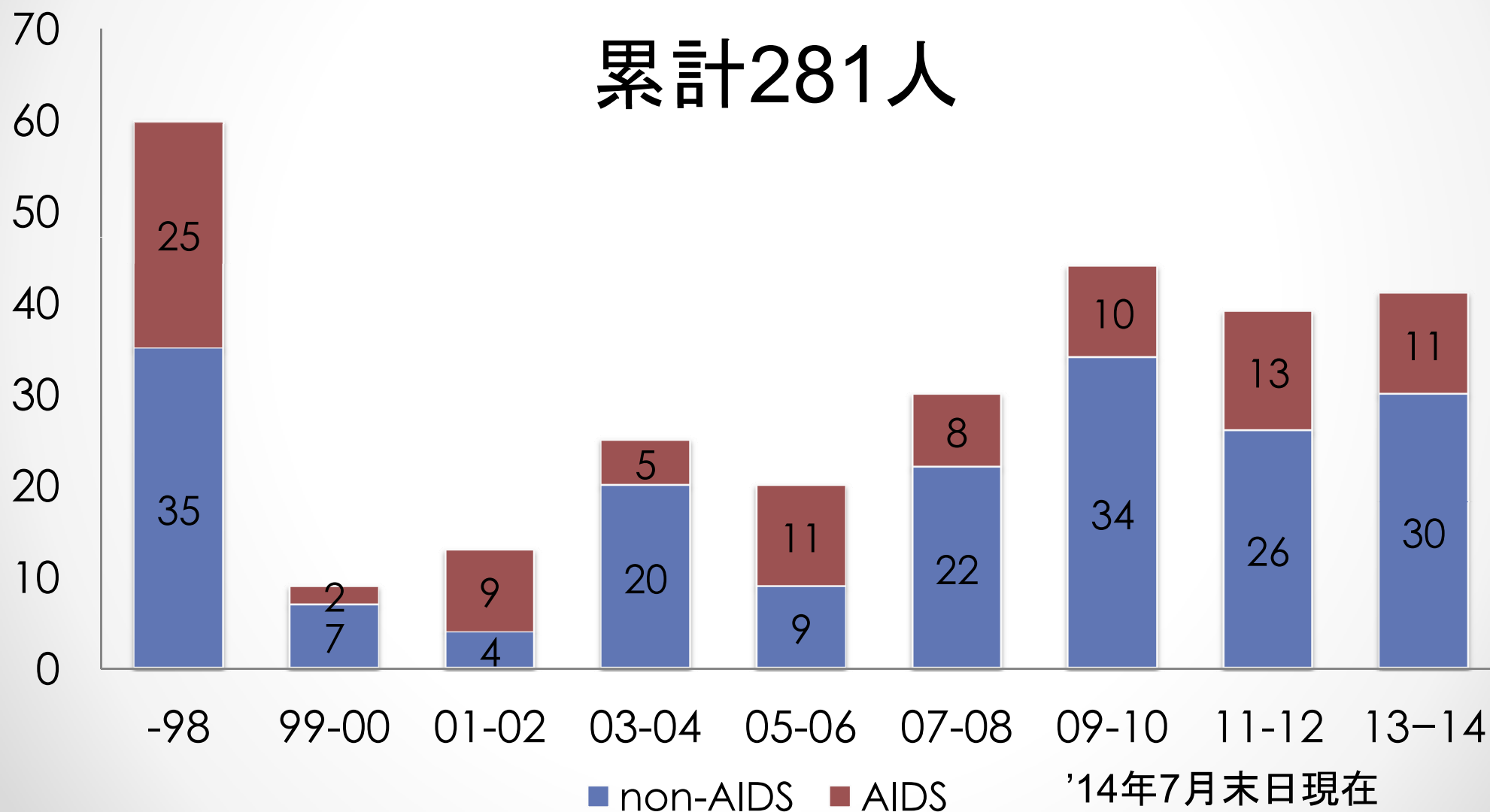


2013年報告上位の自治体

	自治体	報告数		自治体	人口10万対
1	東京都	363	1	東京都	2.729
2	大阪府	172	2	大阪府	1.944
3	神奈川県	89	3	沖縄県	1.060
4	愛知県	65	4	神奈川県	0.980
5	福岡県	46	5	香川県	0.914
6	千葉県	42	6	福岡県	0.904
7	兵庫県	32	7	愛知県	0.873
8	埼玉県	30	8	佐賀県	0.833
9	北海道	23	9	岡山県	0.829
10	広島県	21	10	広島県	0.739

	自治体	報告数		自治体	人口10万対
1	東京都	110	1	東京都	0.827
2	大阪府	54	2	大阪府	0.610
3	愛知県	33	3	沖縄県	0.565
4	千葉県	30	4	広島県	0.528
5	神奈川県	30	5	滋賀県	0.494
6	兵庫県	21	6	千葉県	0.484
7	静岡県	16	7	栃木県	0.453
8	福岡県	16	8	愛知県	0.443
9	広島県	15	9	岐阜県	0.439
10	北海道	14	10	石川県	0.431

広大病院初診時年次別のHIV感染症の病期



今年の研究計画

...

今年度予定の研修会・会議

- 医師向け
 - 11月23日（対象；卒後10年以内 → 特に問わない）
- 歯科医師向け
 - 10月26日（対象；ブロック内拠点病院従事歯科医師及び県歯科医師会）
 - 11月30日（対象；県歯科医師会と共催で県内開業歯科医師）
- 看護師向け
 - 拠点病院勤務の看護師向け
 - 初心者向け 8月20-21日, 9月17-18日
 - アドバンストコース 2015年1月10日（対象；研修経験者）
 - 非拠点病院・一般看護師向け 6月28日（対象；緩和, 療養, 在宅（訪問看護）に関わる看護師）
- 薬剤師向け（県臨床心理士会と共催）
 - 7月19-21日（年2回→1回）

今年度予定の研修会・会議

- 心理・福祉職向け
 - 8月9日（対象；心理職初心者向け）
 - 10月4-5日（対象；福祉職向け）
 - 7月19-20日（県臨床心理士会と共催，年2回→1回）
- 全職種（中核拠点病院スタッフ）向け
 - 2015年2月下旬県臨床心理士会と共催（包括カウンセリングセミナー）→今年度は徳島市を予定。
- 四国地方限定（全職種向け）は…
- 去年は松山市で1泊2日（このスタイルを4年間続けた）
- 医師の参加が少ない，同じような研修会は他にもある，との意見あり
- 今年は…
 - 9月23日に半日で終わる研修会
 - 地元の県医師会と共催を調整中

研修の対象は非拠点病院，介護・福祉施設へ

- 昨年行ったこちらの研修会
- 今年も行う予定

**高齢者施設のための
感染症対策研修会**
～ノロウイルスからエイズまで～

平成25年11月30日(土)
13:30～16:50

会場 広島県立総合体育館地下1階 中会議室
広島市中区基町4-1

対象 高齢者施設従事者
(施設長、医師、看護師、コメディカル等)

定員 60名程度

参加費 無料

申込 申込書に必要事項をご記入の上、平成25年11月15日(金)必着
で082-257-5351までFAXでお申し込みください。

※ 申込多数の場合には、お断りのご連絡を差し上げる事もございます
ので、あらかじめご了承下さい。

	プログラム案 (内容)
13:00	広島県の感染症の動向 (担当：広島県CDC)
13:15	施設におけるスタンダードプリコーション (担当：広島大学病院)
13:45	施設におけるウイルス感染症対策 (担 当：県立広島病院)
14:15	肝炎ウイルス保有者のケア (担当：広島 市民病院)
14:45	看護師の立場から (担当：地元の訪問看 護ステーション)
15:30	エイズ患者の受け入れを視野に入れたこ れからの福祉施設のあり方 (担当：山内 哲也先生)
16:00	当事者からのお願い
16:30	(担当：HIV薬害被害者)

今年のプログラム案

拠点病院以外を研修の 対象とする理由

- 新規患者は拠点病院で発見されるとは限らない。むしろ非拠点病院、開業医からの紹介が多い。
- 拠点病院はほとんどが急性期型病院で、長期入院を余儀なくされる場合、他の慢性療養保有病院等でも受け入れてもらわなければならない。
- 患者の高齢化に伴い、透析施設、在宅介護、訪問看護・診察の関わりが必要になってきており、それらを担当する施設に対する理解が必要。
- 患者に後遺症があり、在宅でのケアに移行する上で、家族のサポートが得られない場合が多い（独居、居住地周囲への病名漏洩への不安）ので、家族のみならず地域の施設（身障者介護施設等）への理解も必要。

例えばこんな事例...

- **高知) HIV感染を理由に治療を拒否 県内の歯科診療所 (朝日新聞デジタル 2014年5月8日)**
 - **高知大学**附属病院によると、この感染者は昨年10月、かかりつけだった歯科診療所でHIVに感染していることを伝えた。すると歯科医師は「治療していることが外に知られる可能性がある」と話し、以後の治療を拒否したという。この感染者は現在、附属病院で治療を受けている。
 - 事態を受けて附属病院は県歯科医師会に対応を要請。今年1月に同会主催の講習会で感染症の予防策を伝えた。附属病院と同会は今後、HIV感染者とエイズ患者が地域の歯科診療所でも治療が受けられるネットワークを作り、情報を共有していくという。
- **昨年度 (11月) に拠点病院勤務歯科医及び各県歯科医師会理事対象に、広島大学病院で会議を開いていたが...**

今年の小冊子発行について (案)

- 血友病患者を非専門小規模病院，社会福祉施設で受け入れてもらうための小冊子
 - HIV感染症患者での小冊子はすでに課題克服班が作成済み
 - HIVでなく，血友病（出血管管理など）で受け入れ困難となるケースもある
- 成人・老人患者に特化した血友病診療ガイド
 - HIVのみならず肝炎・肝臓，腎疾患・透析，脂質異常症などの合併症のある血友病患者のケアの留意点をまとめたもの
- 非専門小規模病院，開業医のためのHIV診療ガイド
 - 「早期発見して専門病院へ紹介」のみならず，「落ち着いた患者」のケアを行うための非専門医向け小冊子

